

防衛省の計画で人間の自然が今、危機に！ 私たちと未来の子どもたちのために、森を守ろう！



1956年



2007年 ※1

ジョンソン基地跡地とは：

戦前に小河内ダムにより水没した村の人々が移り住んだところです。第二次大戦中、旧陸軍航空士官学校として政府が買入れ、敗戦後は米軍基地になり、『ジョンソン基地』と名付けられました。

1963年から1975年にかけて日本政府に返還され、学校や公園をして、広大な人間航空自衛隊基地が出来ました。

残された土地は『留保地』と呼ばれています。入間市は、日本政府からこの土地を買うよう求められ、2008年に市は環境保全を主とした利用計画を作りましたが、お金を払うことができなかったため、計画はそのままになりました。



※2

「防衛省計画」 ここが問題

跡地利用に関しての 2008年計画を無視している

市民は東町基地跡地を“市街地に残された貴重な緑地を保全”したいと考えました。

みんなの意見を聞き入れる事に失敗

防衛省の計画については、区報でたった1回しか伝えませんでした。そして5月に開かれた2回の市民説明会では、意見のすべてが反対でしたが、その意見を聞き入れませんでした。

入間市の環境基本条例に合わない

「基本条例は環境における憲法。市のすべての計画に優先」と書かれていますが、そのことについては審議会でも市議会でも問題にされませんでした。

「緑の基本計画」の反対の方向に向かう

2015年7月の緑の基本計画には「新たに森を増やす」、「自然公園を作る」事が書かれています。

大きな地震が起きたときのため？

首都圏での大きな地震など災害が起きたときに、救助に向かうために自衛隊の人たちが沢山そこに集まるという事ですが、普段は戦闘訓練をする場所なので、300haの広さ（東京ドーム64個分）のある入間基地を使う方が便利ではないでしょうか。

後送病院ってなに？

入間市は、自衛隊病院が入間に住む人々が緊急に病院に行かなければならないときに、この病院が役に立つとしています。しかし、この病院の元々の性格は、負傷した自衛隊の人たちを受入れて、もっと専門的な病院に移すための後送病院です。地域の病院とは性格が違います。

みんなの暮らしを守れない

防衛省の計画の中の緑地では、飛行機が飛ぶときの騒音問題は解決できません。また、小・中学校がすぐそばにありますが、戦争訓練は子どもたちの教育にふさわしくありません。

私たちの計画！

鍵をかけて入れない場所を作るのは将来世代のためにはなりません。それよりも、市民のアイデアを活かした森を作り、活かすことのできるみんなのための自然広場にしましょう！

緑を活かした、ツリーハウスカフェ(木の上喫茶室)や憩いの家、木の上のこども秘密基地など、子どもとごとの遊び場をつくる。

森を守るための様々なプロジェクトを立ち上げて、いろいろな会社の社会に役立つための制度(企業のCSR)に訴えて、知名度を上げ、お金を作る。

緑の基本計画にある自然公園作りを国交省と交渉して実現する。

緑に囲まれたサイクリングロードをつくって他の地域とつなげ、自動車の代わりに自転車利用を広める。

農園とフリーマーケット



いるま市民の森

グリーンサイクリングロード



Illustration:Nanami Kurasawa

「隣接する小中学校の子どもたちが学べる」
木の工房



ツリーハウスカフェ

こうしたみんなの計画は、入間に住む人だけではなく、アウトレットモールなどに行く人たちも来たいな!と思えるような魅力あるところになります。

今からでも遅くはありません。基地拡張という選択ではなく、「自然が好き、人が好き」という入間の標語にふさわしい、緑いっぱい町づくりをすすめて「住みやすい入間」をこれから移住しようという人たちにも提案していきましょう！

【出典】※1 「平成26年度 第2回審議会(平成27年1月14日開催) 会議録・資料 資料5 東町側留保地視察行程表」より
https://www.city.iruma.saitama.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/014/999/200806riyoukeikaku.pdf

※2 入間市「ジョンソン基地跡地 留保地利用計画書」(平成20年6月)より
https://www.city.iruma.saitama.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/014/999/200806riyoukeikaku.pdf